

# ELECTRONIC SURFACE

「電子的皮膜・水のたてももの」展

- LIQUID STRUCTURE  
1993.11/6 (土) - 12/1 (水)

- 主催・会場：  
○美術館
- 協賛：菊川工業株式会社  
エクスツールズ株式会社
- 助成：  
芸術文化振興基金
- 開館時間：  
10:00A.M. - 6:30 P.M.  
(ただし入館は6:00まで)
- 休館日：木曜日
- 入館料：一 般 5 0 0 (4 0 0)円  
高・大生 3 0 0 (2 0 0)円  
小・中生 1 0 0 ( 5 0)円  
( )は20名以上の団体料金

石井勢津子  
伊東豊雄  
小畑正好  
倉俣史朗  
関口敦仁  
藤幡正樹  
横尾忠則

○美術館

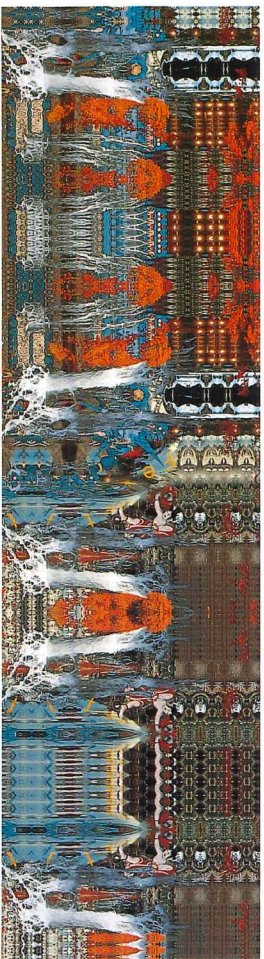
東京都品川区大崎1-6-2大崎二ユーセンター2号館  
TEL 3495・4040 JR山手線大崎駅東口下車徒歩1分  
Designed by ATSUSHIHO SEKIGUCHI

□シンポジウム  
11月27日(土)2:00 P.M. - 4:00 P.M.  
谷川 渥・伊東豊雄・関口敦仁

# ELECTRONIC SURFACE

—LIQUID STRUCTURE

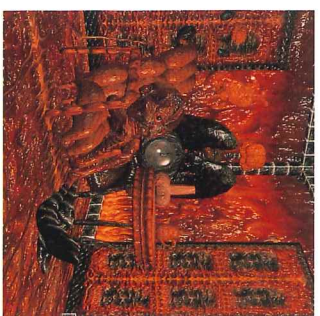
「電子的皮膜・水のたても」展



横屋忠則「世紀末ラネスクエーア」1993



倉俣史朗「SPRALL」1990



小畑正好「ORGAN HOUSE」1992



藤橋正樹「禁断の果実シリーズ」1990



石井勢津子「Light in Light」1991



伊東豊雄「VISIONS OF JAPAN」1991

いわゆる高度情報化社会という環境のなかで、われわれは確かな物のリアリティを感じること無く、曖昧な実体の肌触りを感じつつ日々生きています。コンピュータ内の生き物に確かなリアリティを感じ、逆に現実の都市などはどこか作り物めいて見えるのもしばしばです。

このよなわれわれの時代のなかで、ものを作り上げることとは、どのような様相を見せているのでしょうか。それは、確かな存在を強く主張する、求心的で堅牢なものではなく、曖昧な、たゆたうような、かそけき存在です。しかしそれでも確かにそこにある。ペールのようなつくりも。そこで核となる実体の厚みの表現というよりも、内側でも外側でもない中間的な皮膜的なものこそがリアリティを持っているのではないのでしょうか。

コンピュータ上に生成するイメージ・かたちも、モニター内の不可思議な水槽のようなもののなかに生きる実体の無い生物体のように見えてきます。そこに水にちなむイメージが多いことも故無きことではないでしょう。

コンピュータ・グラフィックスを使った表現も、単にリアリズムの追求を行うばかりでなく、それをこの世界への探査の針として捉え、現実の物とこの非物質的なものの有様を基にして優れた表現を見せる様々の人々がいいます。

今回は通常、現代美術・現代建築・CGアーティストと分類される表現者に、そのつくりだされたものの独特な有様を、「皮膜」をキーワードとして、その非実体的な容れものとしての電子空間を意識した各自独特の様々の表現を試みてもらおうとするものです。

皮膚とは最も外的な表面に常に接しているところであり、またわれわれが自分をかんがえる時に現実的に抛り所とするものではないのでしょうか。とするならば「皮膚」「皮膜」をふりかえることは、われわれ自身を、またはわれわれの世界における位置につきあらためてかんがえることになるでしょう。

今回の展覧では、CGのみならず様々のメディアによって広く展示し、そのような現代におけるリアリティにつきかんがえてみようとする試みです。



○美術館 2階

- 交通  
山手線大崎駅(東口)下車徒歩1分  
東急バス(大井町駅⇄渋谷駅)大崎駅下車徒歩1分
- 駐車場  
美術館専用駐車場はございません。  
お車でのご来館の場合、「大崎ニューシティ」地下2Fの駐車場(有料)をご利用下さい。

○美術館 2階

(財)品川文化振興事業団

## ○美術館

第一美術館：山手線大崎駅東口下車徒歩1分  
東京都品川区大崎1-6-2 大崎ニューシティ12号館  
TEL. 3494-4040